

テクニカルセッション



柏木 雅之

独立行政法人情報処理推進機構

ソフトウェア・エンジニアリング・センター

研究員

システム基盤における上流工程での非機能要求合意を目指して

プロフィール

1983年茨城大学大学院工学研究科情報処理工学専攻修了（修士）。

同年、富士通株式会社に入社。メインフレームのイメージ管理ソフトや分散処理ソフト、及びオープン系のテキスト検索ソフトの開発などに従事。その後、経営企画室勤務やXMLの普及・推進活動への従事を経て、SE部門向けの技術支援・普及活動に従事。

2010年4月より(独)情報処理推進機構(IPA)に出向中。非機能要求グレードの検討・普及活動やアジャイル型開発のガイドライン検討などに従事。

講演概要

情報システムを開発する際、発注者（利用者）と受注者（開発者）の双方が要求を正確に認識するためには多大な苦勞が伴います。中でも可用性、性能、セキュリティなどの非機能要求は、どのような項目をどの程度にするかという認識共有が難しく、手段が確立していません。

IPA/SECでは、このような非機能要求を適切に策定するための手法である「非機能要求グレード」の利用を推奨しています。「非機能要求グレード」は、システム基盤における非機能要求に対し、要求項目を体系化し、重要な項目順に決める段階的な選択肢を提示しています。また、重要な項目については、3つのモデルシステムに対して、推奨の非機能要求レベルを提示しています。

このセミナーで「非機能要求グレード」について概要を説明すると共に、いくつかの活用事例を説明します。